◆団体基本情報

No.	6	種別	公益社団法人	団体名	公益社団法人仙台市シルバー人材センター		
所在地	〒980-0802 仙台市青葉区二日町14-4 北四番丁ステーションビル4F						
電話番号	022-214-6262		FAX番号	022-214-6264		所管 部局	健康福祉局 高齢企画課
団体ホームページ	https://webc.sjc.ne.jp/sendaisc/						
代表者職氏名	理事長 石川 浩史			設立年月日	昭和56年1月10日		
基本財産等	0 千円		市の出捐額 (割合)	0 千円 (%)			
設立 目的	定年退職者等の高齢者の希望に応じた臨時的かつ短期的な就業またはその他の軽易な業務に係る就業の機会を確保し、提供することなどにより、その能力を活かした就業その他の多様な社会参加活動を援助して、高齢者の生きがいの充実と福祉の増進を図るとともに、活力ある地域社会づくりに寄与することを目的とする。						
事業 概要	会員登録している高齢者の希望に応じた臨時的かつ短期的な就業またはその他の軽易な業務に係る就業機会の確保及び提供						
評価対象決算期	令和6年4月1日～令和7年3月31日						

◆人員等の状況

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
①常勤役員数	2 人	2 人	2 人
うち市派遣	0 人	0 人	0 人
市退職者	1 人	1 人	1 人
②常勤役員平均年齢	63.0 歳	64.0 歳	64.0 歳
③常勤役員平均年間報酬	4,516 千円	4,544 千円	3,844 千円
④職員数	16 人	18 人	20 人
うち市派遣	0 人	0 人	0 人
市退職者	0 人	0 人	0 人
⑤職員平均年齢	45.5 歳	45.9 歳	46.9 歳
⑥職員平均年間給与	4,305 千円	4,099 千円	4,422 千円

◆主要財務データ

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
①当期経常増減額	10,704 千円	21,664 千円	8,505 千円
②当期経常外増減額	0 千円	0 千円	0 千円
③当期一般正味財産増減額	10,704 千円	21,664 千円	8,505 千円
④一般正味財産期末残高	144,580 千円	166,245 千円	174,749 千円
⑤指定正味財産期末残高	0 千円	0 千円	0 千円
⑥正味財産期末残高	144,580 千円	166,245 千円	174,749 千円
⑦長期借入金残高	0 千円	0 千円	0 千円

◆市の財政的関与

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
①市からの補助金	54,421 千円	58,016 千円	76,893 千円
②市からの委託料 (指定管理料含む)	76,516 千円	73,171 千円	89,156 千円
③市に対する収入依存度	12.18 %	11.68 %	14.66 %
④市からの借入金	0 千円	0 千円	0 千円
⑤市からの債務保証に係る債務残高	0 千円	0 千円	0 千円
⑥市からの損失補償に係る債務残高	0 千円	0 千円	0 千円

◆主要事業一覧及び概要

事業名	事業概要	令和6年度事業費
高齢者に対する就業相談及び職業紹介事業	臨時的かつ短期的な就業またはその他の軽易な業務に係る就業を希望する高齢者のために、就業の機会を確保し、提供している。 (会員数：R7.3/31現在 2,908人)	1,108,822 千円

◆経営評価の総括

項目	外郭団体による総括	所管局によるコメント
1. 公益的使命・市が期待する役割への対応	世界に類を見ないほどのスピードで高齢化が進み、令和7年には団塊の世代がすべて75歳以上となり、労働力不足や地域社会の担い手不足等が懸念される。健康で意欲あふれる元気な高齢者は、人手不足の解消や地域活性化の切り札となっており、シルバー人材センターには、これまで以上の働きが求められている。地域の特色や実情を踏まえ高齢者が就業等を通じて地域社会に貢献できる仕組みや、高齢者・子育て世帯からの支援ニーズに応えるための就業開拓を進め、技能習得の研修会等の実施や、年齢がいくつになっても活躍できる体制・環境を整備し、事業の拡大を図る。「生涯現役サポートセンター」においても多様な働き方のサポートを行い、ますます市民に必要とされるセンターとなるよう努める。	生産年齢人口が減少する少子高齢社会において、地域や社会における様々な活動の担い手として高齢者への期待が高まる中、当センターの役割も年々増している。今後も高齢者の多様なニーズに応じた就業機会の提供に取り組んでいただきたい。
2. 業務・組織管理	市やハローワーク等の関係機関と連携し、新たな仕事の獲得に向けて取り組んでいる。人手不足が深刻な介護・子育て分野等においては、介護事業所の職員が集まる研修会で、国の補助事業である介護トライアル事業のPRを実施したり、シニア人材活用相談会（企業向けセミナー）に参加するなど、就業機会の創出に繋げている。デジタル化を継続しフリーランス法に基づく就業条件明示の適切な対応や、改正公益法人制度についての職員講習会の開催など、制度変更に対処し、事業を円滑に遂行できるよう努めている。	人手不足が深刻な介護・子育て分野等における受注機会拡大に引き続き取り組んでいただきたい。また、フリーランス法への適切な対応のため、デジタル化を継続するとともに職員向け講習会を開催するなど、円滑な事業運営への取り組みを引き続き遂行していただきたい。
3. 財務状況	事務費率の見直しや派遣事業の伸びにより、契約金額は前年度実績を上回った。インボイス制度によって消費税の納税額が増えたが、特定費用準備資金の取崩しにより影響を抑え、財務状況は安定している。しかし、新たな契約方法へ移行した際に、契約終了を申し出る発注者が一定数あると考えられ、状況によっては、経営基盤に影響を及ぼしかねない。デジタル化による経費削減や特定費用準備資金の積立等により、自己財源の確保にも取り組んでいる。	インボイス制度の開始や新たな契約方法への移行など、事業環境の変化を見据えた特定費用準備資金の活用や事務費率の見直し等により財源確保に努めている。引き続き、会員の確保や就業先開拓など財務状況の安定化に取り組んでいただきたい。
4. 今後の方向性及び課題	インボイス制度、フリーランス法の施行と続いた環境の変化も、新たな契約方法への移行を残すのみとなり、経営基盤への影響が極力少なくなるよう発注者への丁寧な説明をしなければならない。また公益法人制度改革による新しい制度への対応も求められており、シルバー事業を取り巻く環境は厳しい状況が続く。新たに策定する「中期経営方針」では、持続可能なセンター事業の推進について方策を検討し、運営基盤となる財源の確保を図り、より一層、地域や高齢者から必要とされる組織となることを目指さなければならない。	当センターの事業は、高齢者の貴重な知見・経験や技能を地域社会へ還元するとともに、会員の社会参加や生きがいづくりにもつながっている。様々な環境変化の中でも、就業機会の確保のため、発注者への丁寧な説明に努めるなど、経営基盤の安定化に向けた取り組みをさらに推進していただきたい。